

湯河原町福浦港で記録されたハシジロアビについて

室 伏 友 三・高 橋 和 也・初瀬川 孝 夫

A White-billed Diver Recorded from Kanagawa Prefecture

Yuzo MUROFUSHI, Kazunari TAKAHASHI and Takao HATSUSEGAWA

1984年2月24日、湯河原町福浦港において1羽のアビ類が保護され、小田原市立動物園に保護収容された。筆者らはこの鳥を生きたまゝの状態詳しく観察する機会をえ、近似種と比較検討した結果、ハシジロアビ *Gavia adamsii* の幼鳥（第1回冬羽）であることがわかった。

ハシジロアビは日本産アビ類中の最大種で、冬鳥として主に北日本の沿岸に渡来するが、数はあまり多くない。通常の渡来南限は寒流の南下する千葉県銚子付近と思われ、以南に渡来することはまれであり、本県における確実な記録はなかったようである。

報告に先だち、調査に多大な便宜をはかって下さった小田原市立動物園の職員の方々にお礼申しあげる。

観察結果と考察

この個体が近似種で北米北部産のハシジロオオム *G. immer* でないことは、嘴の色と形および初列風切の羽軸の色により明らかである。ハシジロオオムでは、嘴の嘴峰は常に暗色（他の部分が淡色であっても）であり、初列風切の羽軸は暗複色である（Cramp

and Simmons, 1977）。この個体では、嘴は全体に淡黄色を帯び、嘴峰は暗色ではなく（図1, 上）、初列風切の羽軸は白黄色であった（図1, 下）。下嘴がほぼ中央位置で顕著に上方にそり上がっている（図1, 上）のも、ハシジロアビの特徴をよく表わしていた。襟羽、肩羽、雨覆の羽縁が顕著にバフ白色で縁どられている（図1, 下）ことから、この個体は幼鳥（第1回冬羽）と考えられる。足の色は跗蹠から指先まで肉色を帯びていた（図2）。

なお、大きさは次の通りであった。翼長380mm、尾長60mm、露出嘴峰85mm、跗蹠長100mm。

標本は神奈川県立自然保護センターに保管されている。

文 献

CRAMP, S. and K. E. L. SIMMONS 1977 The birds of the western Palearctic 1. Oxford.

（室伏友三：箱根町立箱根明星中学校、高橋和也：藤沢市立明治中学校、初瀬川孝夫：早稲田大学学生）

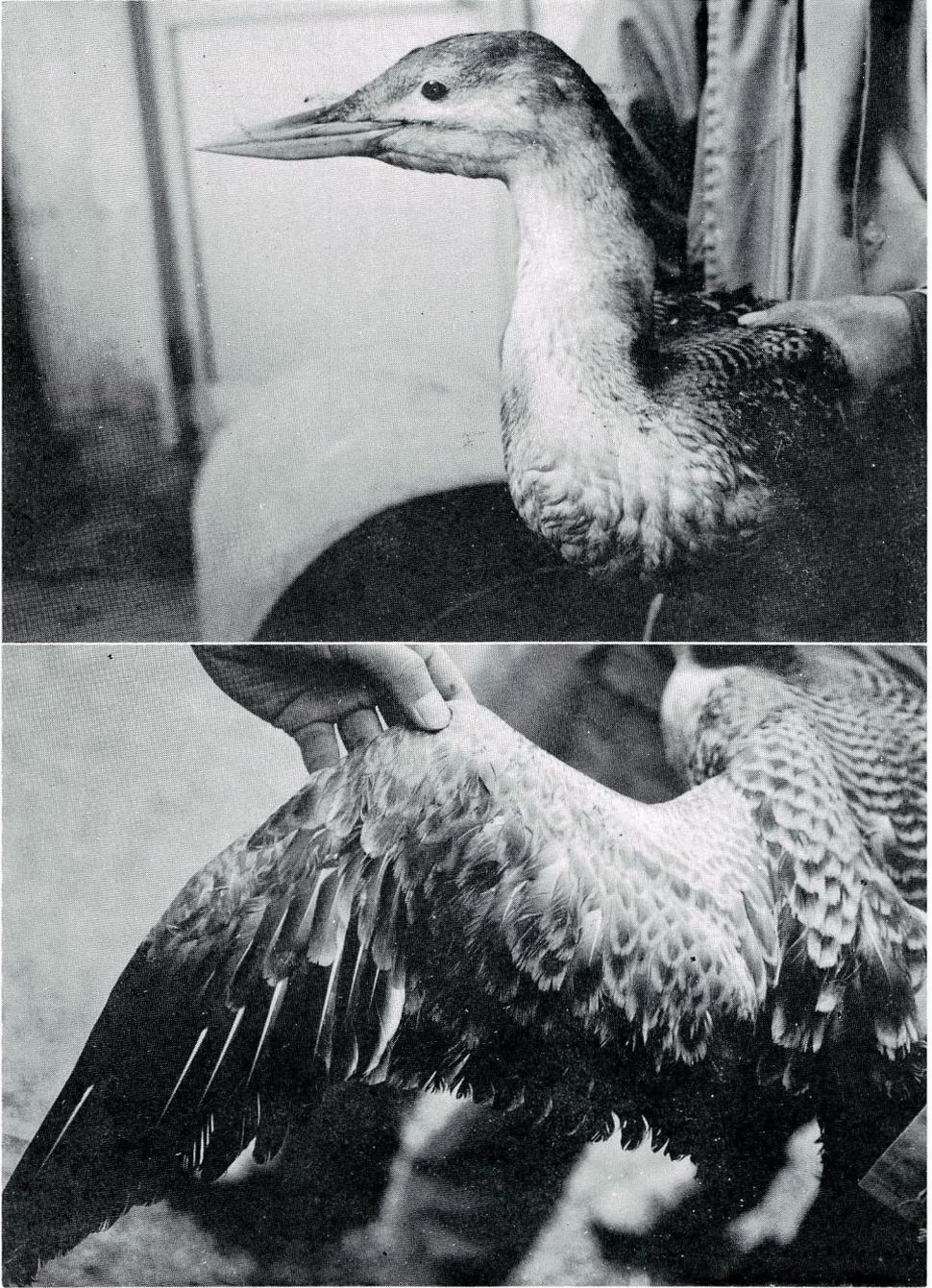


図1 ハシロアビ幼鳥の頭部(上)と翼面

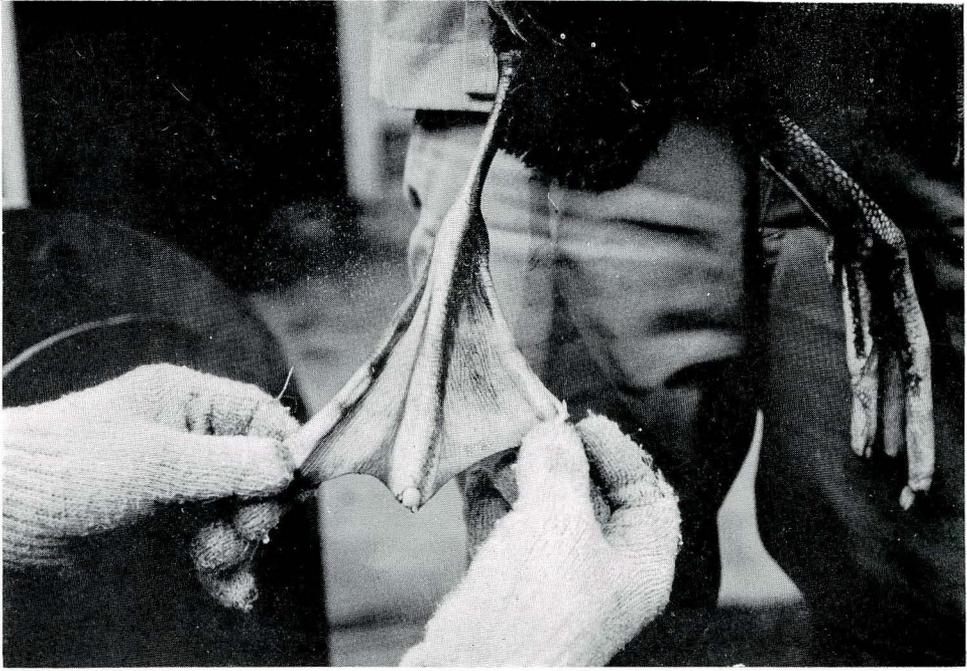


図2 ハシロアビ幼鳥の足